

Viva Kango

No.43

Campus News of Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1 TEL (0157) 66-3311 FAX (0157) 61-3125
mail to:kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp http://www.rchokkaido-cn.ac.jp

発行日/2016年3月1日
編集・発行/広報委員会



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日本赤十字北海道看護大学

大学院生特集

「大学院での生活」

平成十六年度学部卒業
精神看護学領域(CNSコース) 工藤祥太

私は、リエゾン精神看護CNSになるために大学院に通っています。“リエゾン”には、つなぐ、連携する、橋渡しをするという意味があり、内科や外科などの一般科の看護に精神看護の知識や技術を適応し、一般科の看護師や医療スタッフと連携を取りながらより良いケアを提供する役割があります。精神疾患が五大疾患と言われるようになった今、リエゾン精神看護CNSはとても重要な役割として注目されています。

私が、いつかりエゾン精神看護専門看護師(以下リエゾン精神看護CNS)になりたい。そんな事を漠然と思い始めたのは、大学生の時でした。

大学生というのは、親元を離れて生活を始めたり、自由と責任の狭間で揺れ動いたり、とても不安定な時期です。そんな時に、私も、周りの友人も、色々な悩みを抱えていた事を、今でも鮮明に覚えています。今思うと、これから看護師になって、患者さんのケアを始めようとしている自分たちが「自分自身のケア」が出来ていなかったのだと思います。当然ですよ。エリクソンの発達段階では自我同一性の確立の時期でし



たが、その時は自分に当てはめて考える余裕なんてありませんでした。看護師になると、覚えなければいけない事が次々にあり、必死に患者さんの事を考えているうちに、一年はあっという間に過ぎて行ってしまいました。私にとってリエゾン精神看護CNSになる事は「いつか叶えたい夢」の一つになり、頭の片隅に置き忘れたまま、臨床での十年間を過ごしました。しかし、仕事以外に勉強をする余裕はないという現実を、いつしか言い訳にしている自分の弱さに気づき、抜け出すために

は、逃げ道を閉ざして学ぶしかない、強い覚悟を決めて大学院に進学しました。

そんな風にして仕事をしながらの、大学院生活は始まりました。今ももう釧路で働きのながら、大学院に通い始めて二年が過ぎようとしています。通常二年の大学院修士課程を、長期履修制度を使い三年かけて修了する予定です。同じ大学院生の仲間も、ほとんどが仕事をしながら長期履修制度を使い学びに来ており、遠くは札幌や旭川からも通っています。年齢も二十代〜五十代と幅広く、色々な経験を積んでいる仲間との出会いは、とても刺激的です。今では大学院に来る事が、楽しみであり息抜きでもあり、モチベーションになっています。また、忙しい時や冬場にはインターネットを使って釧路にしながら授業に参加する事が出来る環境もあります。働きながら学んでいる大学院生にとっては、とても有難く、遠方の仲間は良く利用しています。でも、やっぱり北見に来て仲間の顔を見ると、ホッとするんですよ。母親のように気遣ってくれたり、みんなでランチに行ったり、「学生だなあ」と思う時間は、忙しい日々を過ごしている私にとっては貴重な時間です。

もちろん、遊びに来ている訳ではないので、勉強が辛い時もあります。が、助け合い励まし合える仲間がいるからこそ乗り越えられると感じています。何を学ぶかは自分次第です



「在学生の皆様へ」

平成二十六年度卒業生
助産学領域（助産資格コース）

松野 絢

皆様、こんにちは。私は、平成二十六年三月に本学を卒業、今年三月に本大学院を修了（助産学分野 助産学領域 助産資格コース）した松野絢です。在学生の皆様の中で、現段階で大学院への進学を考えているという方は少ないのではないのでしょうか。私自身、助産師免許を取得するという目的がなければ進学は考えていませんでした。けれども今は、助産師免許取得という目的を抜きにしても、進学をして良かったと思っています。そこで今回は、大学院で過ごした二年間についての話をさせていただきます。

では早速ですが質問です。皆様は大学院にどのようなイメージをお持ちでしょうか？同じ学内に大学院があっても、意外と知らないことが多いのではないかと思います。私は大学院の入学式で初めて院生室があることを知りました（笑）

大学院は、学部と比べて自由度が高い分、自分自身でスケジュールを組み立てながら積極的に学ぶ姿勢が必要となります。私が在籍していた助産資格コースは、助産師免許と修

士両方の取得を目指すコースだったので、通常であれば修士課程を修了するためには、三十単位以上の科目履修と修士論文に合格することが要件となりますが、三十単位に加えて助産学に関する二十八単位の科目を履修する必要があり、五十八単位以上の科目履修と修士論文の合格が修士課程修了の要件でした。

そのため、授業、課題、実習、研究（修士論文は一年次より計画的に進めていきます）を全て同時進行しなければならず、時には自分の能力

以上のことを求められることもあり、スケジュールや優先順位を考えながら、教員と交渉して授業日時や課題提出日時を変更して頂くこともしばしばありました。授業は参加型であるため、常に自分の意見や考えが求められる。時には自分自身でプレゼンテーションを行うこともありましたが、演習や実習は先生や指導者さんより指導・助言を受けますが、演習では自分たちで事例を考えながら技術練習を行い、実習では授業や演習を通して自分自身で考え行動できる力が求められます。これらのことから、少なからずではありますが、主体性、自律性が身についたと思います。

前述したように、院生には院生室が与えられ、自分の席を持つことができます。学年や分野、領域をこえて交流ができる環境が整っており、大学卒業後ストレートで進学したため臨床経験がない私にとって、現役看護師、保健師である方々と院生室で交流する時間はとても貴重であり、有意義なものでした。また、先輩や同期は皆、臨床経験が豊富な方々ばかりであったので、看護職としてのあり方だけでなく、社会人としてのあり方も含め育てて頂き、大学院は人間的にも成長させてくれる場でした。また、冒頭で大学院へ進学して



良かったと述べましたが、決して順風満帆な大学院生活だったわけではありません。何度も壁にぶつかり、とにかくぶつかり（笑）、涙を流したこともありましたが、同期、先輩、後輩、先生方、家族、友達といった周囲の支えがあったからこそ乗り越えることができた二年間でもあったと実感しています。

ここまでお読み頂きましたが、今はまだ進学なんて考えられないというのが正直なところではないでしょうか。大学卒業後に看護職として働いていく中で、今後自分は看護職としてどうなりたいのかと考えた時に、大学院への進学という道もあることを思い出して頂ければ嬉しく思います。また、大学院へ行ってみたい、修士が欲しい、研究がしたい、助産



師になりたい等、少しでも大学院への進学に興味・関心がある方は、オープンキャンパスや入試説明会に参加したり、先生方からもお話を聞いてみて下さい。

これから皆様は看護師免許、保健師免許の取得に向け、越えなければならぬことがいくつもありますが、時には思うようにいかず悔しい思いをしたり、もう諦めたいと思うこともあるかもしれません。こんなことを言っては先生方に怒られてしまうかもしれませんが、頑張り過ぎずに適度に息抜きをしつつ、その時の自分にできることを精一杯やるのが大事だと思います。皆様の学生生活が有意義なものとなりますよう、そして素敵な看護師、保健師、助産師となられますよう応援しております。